

# 専修大学北上高等学校 経済産業省「未来の教室実証事業」における 実証校としての取り組みと成果

## <Contents>

- ・学校改革における未来の教室実証事業の位置づけ
- ・改革の歩み【実証事業前の学校改革プロジェクト】
- ・改革の歩み【実証事業期間における学校改革推進プロジェクト】
- ・実証事業：学びの改革の内容①【カリキュラム改革の具体化】
- ・実証事業：学びの改革の内容②【DPに基づく力の定義と評価軸検討】
- ・実証事業：学びの改革の内容③【評価体系に基づくシラバス改善】
- ・実証事業：学びの改革の内容④【OJTによるアクティブラーニング研修】
- ・実証事業：探究プログラム開発①【探究WEEKによる探究型プログラム展開】
- ・実証事業：探究プログラム開発②【探究型授業のコンテンツ研究】
- ・専北学校改革推進のポイント①【みんなで話し合い、共有するからスタート】
- ・専北学校改革推進のポイント②【そもそもを大切にする】
- ・専北学校改革推進のポイント③【部署横断型の推進体制づくり】
- ・まとめ：専大北上高校未来の教室実証事業の成果とは
- ・今後の展開①：【シラバス共有による教科横断型授業インフラの整備】
- ・今後の展開②：【専北DXプロジェクトによる学びとマネジメントの一体的改革】
- ・今後の展開③：【教科横断コア科目としての総合的な探究の時間の展開】



# 【学校改革における未来の教室実証事業の位置づけ】

専北の「学び」 3つの柱 ～未来を創るカへ～

アクティブ  
ラーニング

学ぶことそのものを楽しみ  
豊かな出会いの中で  
前向きにチャレンジする学び

ダイバーシティ  
ラーニング

多様な視点・それぞれの  
ちがいを大切にした学び

ディープ  
ラーニング

自らが課題の本質を見出し、  
解決に向けた具体的な行動に  
つながる学び

本校の学びの軸となる「ディープラーニング」「アクティブラーニング」  
「ダイバーシティラーニング」を進めるための仕組みづくり

- 3つのラーニングを進めるためのキャパシティビルディング
- 3つのラーニングを進めるための体制づくり
- 3つのラーニングを進めるための評価体系構築
- 3つのラーニングを体験・共有・推進のための「探究プログラム」の構築

# 改革の歩み①【実証事業前の学校改革プロジェクト 2020年4月～2020年12月】

2020年4月

6月

8月

10月

12月

立ち上げ期

改革イメージ共有期

改革ビジョン検討期

学びの  
改革

- 探究イメージ共有研修

- 教員研修での3つのポリシー検討開始

- 3つのポリシーの深化
- 3つのポリシーに基づくロードマップの作成

- 学びを中心にした学校改革研修（かえつ有明）

- 新陽高校に学ぶ「学校改革」とは研修

- 2022年度からのカリキュラム検討開始
- ふたば未来学園視察

学校  
マネジメント  
改革

- 阿部校長就任

- 学校改革基本方針検討

- 校長から教職員向け学校改革の基本方針提示

- 校舎新築委員会の設置

- 校舎新築委員会が中心になったワークショップによる校舎新築基本コンセプト検討

- 部署横断型の未来創造委員会立ち上げ

- 学校改革アドバイザー配置

- 北上市とSDGs実現に向けた人材育成推進に関する連携協定締結

- 総合型地域スポーツクラブプロジェクトの立ち上げ

探究  
プログラム  
開発

- 普通科特進コース「探究プログラム」実施

- 商業科1・2年生「専北マルシェ」プログラム開始

- 商業科2年生インターンシッププログラムの実施

※新型コロナのため事前調査までの実施

- 「専北マルシェ」開催

- 普通科特進コース「授業チャレンジ」

# 改革の歩み②【実証事業前の学校改革プロジェクト 2021年1月～2021年7月】

2021年1月

3月

5月

7月

9月

## 改革ビジョン検討期

## 新しい学びに向けた助走期

### 学びの改革

- カリキュラム改革に関する研修会⇒2022年度普通科のコース改革の内容提示
- 学びの基本となる3つのラーニングコンセプトの決定
- 普通科ディープラーニングコース、アクティブラーニングコース設置および商業科のグローバルビジネス科への名称改定の公表
- 新学習指導要領と部活動を考える研修会
- 授業改善に向けた研修会の実施
- オープンスクールで「未来を創る学び」を中学生と体験・共有

### 学校マネジメント改革

- 新校舎建築コンセプト確定⇒設計コンペの開催
- 校舎新築設計事業者確定
- 校舎新築に関するワークショップ（教員向け・生徒向け）の実施
- ワークショップ形式による新しい入試広報制作プロジェクト開始
- 学校改革を推進する「経営企画部」の設置
- 総合型地域スポーツクラブSVきたかみ公表
- 職員会議のペーパーレス化
- 奨学金の見直し

### 探究プログラム開発

- 2021年度の探究プログラムの検討⇒集中型のプログラムへ
- 探究WEEKコンセプト検討
- 探究WEEK導入
- 5日間の探究WEEK（夏）の実施（1・2年生全員）  
※熱中症対策のため予定を変更しての実施  
・未来を創る学びの実践  
・新校舎とダイバーシティから考える「私らしい学び」の検討
- 専北マルシェプロジェクトの開始

# 改革の歩み③【実証事業期間における学校改革推進プロジェクト 2021年9月～2022年2月】

2021年9月

10月

11月

12月

2022年1月

2月

## 「未来を創る学び」形成期

### 学びの改革

- co-teachingテスト実施
- アクティブラーニング型授業改善＆互見授業月間
- 全教員によるルーブリック案検討および教科・各種活動での目指すべき力検討ワークショップ
- 各教科で目指すべき力の定義ワークショップ
- 各教科でのシラバス改善
- シラバス深化ワークショップ
- 授業改善研修
- ICT活用研修
- 「学びに向かう組織」研修
- プレゼンテーション入試要項策定
- プレゼンテーション入試セミナーの開催
- プレゼンテーション入試の実施
- 県内初のWEB出願システムの導入

### 学校マネジメント

- 新校舎設計案決定
- 専北DXプロポーザルコンペの実施
- 企業とのパートナーシップ契約に関する基本コンセプト策定
- 専北DXに関する基本事項整理
- SVきたかみ無料体験会の実施

### 探究プログラム開発

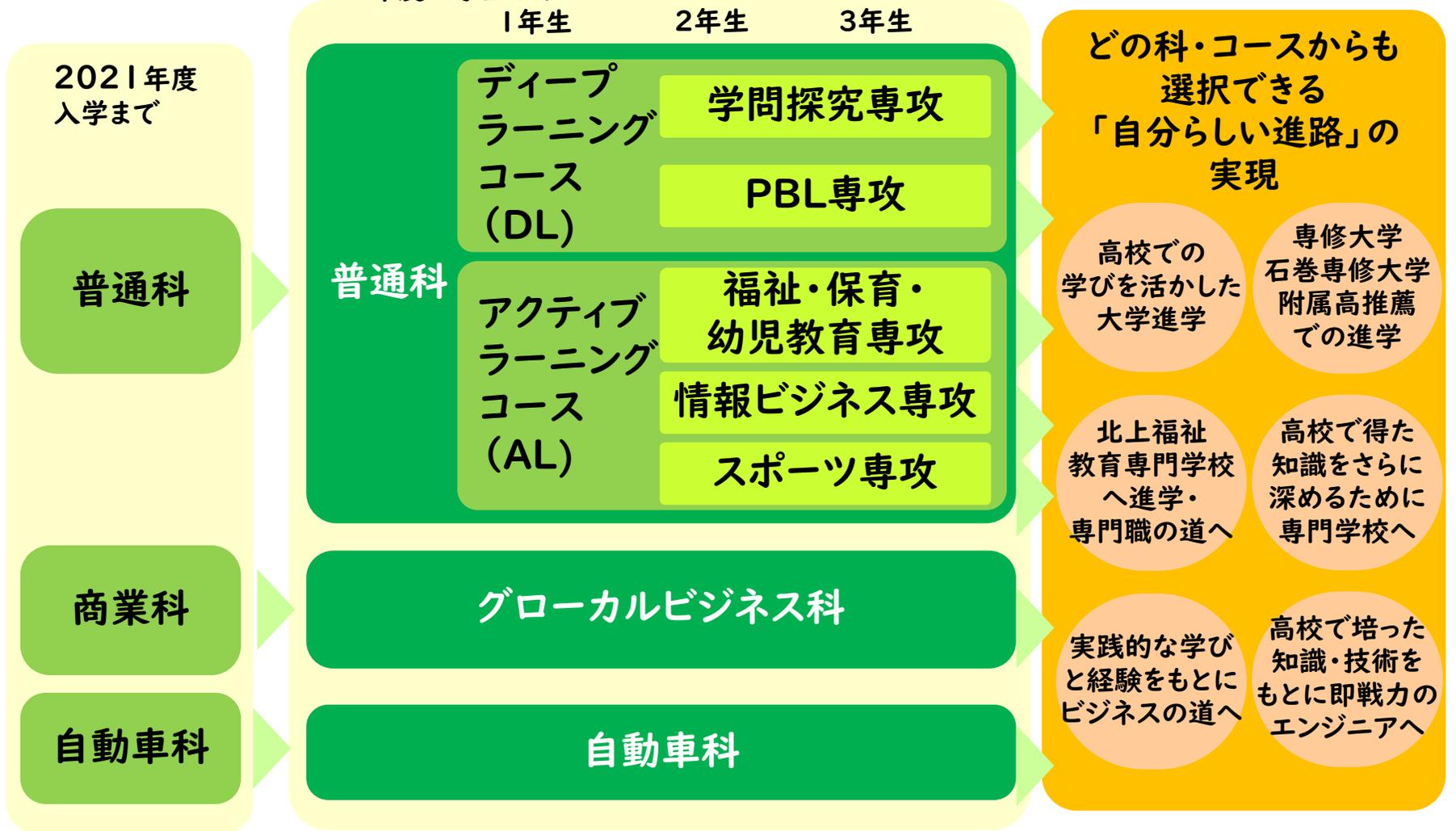
- 探究WEEK導入
- 探究WEEK（冬）の実施
- STEAMライブラリーの活用実験
- 探究WEEKに向けた教員研修実施
- 探究WEEK（冬）の実施・アカデミックプログラム
- 1・2年生全員が15分間の授業チャレンジの実施
- ※スマホ活用での本格実施
- 専北マルシェの実施
- 商業科2年生インターンシップの実施
- インターンシップ報告会の実施

# 【実証事業：学びの改革の内容① カリキュラム改革の具体化】

専北学びの改革

「自分らしい進路の実現」に向け、**科名・コース・専攻** が変わります

2022年度入学生から



# 【実証事業：学びの改革の内容① カリキュラム改革の具体化※時間割イメージ】

カリキュラム改革における普通科の時間割イメージです。（教員配置の調整により、クラスごとに時間割は異なるのであくまで参考資料となります。）

2021年度は総合的な探究の時間は、7月と12月の探究WEEKに集中的に実施するかたちとしました。

それを2022年度の1年生はディープラーニングコース（DL）、アクティブラーニングコース（AL）ともに通年でのプログラムに変更します。※コース変更が可能なように普通科の1年次は同じカリキュラムです。

DLコースのPBL専攻は探究の時間が2年次5時間、3年次4時間となり、木曜の午後は集中的に探究を進める時間となります。一方、DL学問専攻は、2年次までは幅広い学びを実践し、3年次に自分の進路選択にあわせて選択履修が可能なカリキュラムとなっています。ALコースでは、AL専攻として「保育・幼児教育・福祉」、「情報ビジネス」、「スポーツ」のテーマにそった探究型のプログラムを2年次に4時間、3年次に6時間配置します。※AL専攻は、専門学校やグローバルビジネス科、各スポーツ指導者という本校の資源を活用し、社会に開いた学びのプログラムとなります。

<普通科2021年度（現行カリキュラム）>

	月	火	水	木	金	
1年(2021年)	1	数Ⅰ	社情	国総	体育	数A
	2	国総	コミュ英Ⅰ	芸術	国総	体育
	3	コミュ英Ⅰ	化基	数Ⅰ	英語表現Ⅰ	化基
	4	芸術	国総	コミュ英Ⅰ	社情	国総
	5	体育	家庭基礎	現社	コミュ英Ⅰ	英語表現Ⅰ
	6	現社	家庭基礎	保健	数A	数Ⅰ
	7		LH			

<普通科DL 2022年～2024年>

	月	火	水	木	金	
1年(2022年)	1	数Ⅰ	情報Ⅰ	現国	体育	数A
	2	現国	コミュ英Ⅰ	芸術	言語文化	体育
	3	コミュ英Ⅰ	生物基礎	数Ⅰ	英語表現Ⅰ	生物基礎
	4	芸術	言語文化	コミュ英Ⅰ	情報Ⅰ	英語表現Ⅰ
	5	体育	数Ⅰ	公共	コミュ英Ⅰ	家庭基礎
	6	公共	総合探究	保健	数A	家庭基礎
	7		LH			

<普通科AL 2022年～2024年>

	月	火	水	木	金	
1年(2022年)	1	数Ⅰ	情報Ⅰ	現国	体育	数A
	2	現国	コミュ英Ⅰ	芸術	言語文化	体育
	3	コミュ英Ⅰ	生物基礎	数Ⅰ	英語表現Ⅰ	生物基礎
	4	芸術	言語文化	コミュ英Ⅰ	情報Ⅰ	英語表現Ⅰ
	5	体育	数Ⅰ	公共	コミュ英Ⅰ	家庭基礎
	6	公共	総合探究	保健	数A	家庭基礎
	7		LH			

	月	火	水	木	金	
2年(2021年)	1	コミュ英Ⅱ	物基	体育	コミュ英Ⅱ	英語表現Ⅱ
	2	世界史A	英語表現Ⅱ	コミュ英Ⅱ	日本史B	古B
	3	生基	コミュ英Ⅱ	日本史B	数Ⅱ	世界史A
	4	日本史B	数B	現B	古B	数B
	5	数Ⅱ	現B	数Ⅱ	現B	数Ⅱ
	6	保健	体育	生基	物基	日本史B
	7		LH			

PBL						
	月	火	水	木	金	
2年(2023年)	1	コミュ英Ⅱ	物基	体育	コミュ英Ⅱ	英語表現Ⅱ
	2	古典探究	英語表現Ⅱ	コミュ英Ⅱ	地理総合	古典探究
	3	生基	コミュ英Ⅱ	歴史総合	数Ⅱ	歴史総合
	4	地理総合	論理国語	論理国語	総合探究	物基
	5	数Ⅱ	総合探究	数Ⅱ	総合探究	数Ⅱ
	6	保健	総合探究	生基	総合探究	体育
	7		LH			

学問探究						
	月	火	水	木	金	
2年(2023年)	1	コミュ英Ⅱ	物基	体育	コミュ英Ⅱ	英語表現Ⅱ
	2	文国	英語表現Ⅱ	コミュ英Ⅱ	地理総合	古典探究
	3	生基	コミュ英Ⅱ	歴史総合	数Ⅱ	歴史総合
	4	地理総合	数B	論理国語	古典探究	数B
	5	数Ⅱ	英実	数Ⅱ	論理国語	数Ⅱ
	6	保健	総合探究	生基	物基	体育
	7		LH			

AL専攻（保育・教育・福祉 情報ビジネス スポーツ）						
	月	火	水	木	金	
2年(2023年)	1	コミュ英Ⅱ	物基	体育	コミュ英Ⅱ	英語表現Ⅱ
	2	古典探究	英語表現Ⅱ	コミュ英Ⅱ	地理総合	古典探究
	3	生基	コミュ英Ⅱ	歴史総合	数Ⅱ	歴史総合
	4	地理総合	AL専攻	論理国語	論理国語	物基
	5	数Ⅱ	AL専攻	数Ⅱ	AL専攻	数Ⅱ
	6	保健	総合探究	生基	AL専攻	体育
	7		LH			

	月	火	水	木	金	
3年(2021年)	1	選:物・生・理	数Ⅲ	選:世・日B	英語表現Ⅱ	数Ⅲ
	2	コミュ英Ⅲ	選:現社・化学	選:物・生・理	選:物・生・理	数Ⅲ
	3	英語表現Ⅱ	コミュ英Ⅲ	コミュ英Ⅲ	選:世・日B	選:現社・化学
	4	現B	選:世日史B	選:現社・化学	選:現社・化学	コミュ英Ⅲ
	5	古B	体育	数Ⅲ	体育	現B
	6	選:世・日B	英語表現Ⅱ	古B	数Ⅲ	選:物・生・理
	7		LH			

PBL						
	月	火	水	木	金	
3年(2024年)	1	論理国語	数C	選:地歴・数Ⅲ	コミュ英Ⅲ	コミュ英Ⅲ
	2	選:地歴・数Ⅲ	古典探究	論理国語	数B	数C
	3	選:日・世・化	選:日・世・化	選:理科・物・生	選:理科・物・生	選:英実・数Ⅲ
	4	数B	選:理科・物・生	総合探究	選:日・世・化	選:日・世・化
	5	選:理科・物・生	コミュ英Ⅲ	総合探究	英語表現Ⅲ	体育
	6	コミュ英Ⅲ	総合探究	総合探究	体育	英語表現Ⅲ
	7		LH			

学問探究						
	月	火	水	木	金	
3年(2024年)	1	論理国語	数C	選:数Ⅲ・数演	コミュ英Ⅲ	コミュ英Ⅲ
	2	選:数Ⅲ・数演	古典探究	論理国語	古典探究	選:数Ⅲ・数演
	3	選:日・世探究	選:地歴・物	選:政経・物	選:地歴・物	選:文国・化
	4	選:文国・化	選:理科・化	選:理科・化	選:日・世探究	選:日・世探究
	5	選:政経・物	コミュ英Ⅲ	数C	英語表現Ⅲ	体育
	6	コミュ英Ⅲ	総合探究	英語実践	体育	英語表現Ⅲ
	7		LH			

AL専攻（保育・教育・福祉 情報ビジネス スポーツ）						
	月	火	水	木	金	
3年(2024年)	1	論理国語	数学演習	コミュ英Ⅲ	コミュ英Ⅲ	コミュ英Ⅲ
	2	芸術Ⅱ	小論文	論理国語	地歴公民探究	地歴公民探究
	3	選:政経・倫	地歴公民探究	選:政経・倫	芸術Ⅱ	小論文
	4	AL専攻	体育	AL専攻	理科基礎	理科基礎
	5	AL専攻	英語表現Ⅲ	AL専攻	数学演習	体育
	6	AL専攻	総合探究	AL専攻	コミュ英Ⅲ	英語表現Ⅲ
	7		LH			

# 【実証事業：学びの改革の内容② DPに基づく8つの力定義】

DPの明確化とカリキュラム改革に基づき、卒業までに身に付けるべき力・姿勢の明確化と教員・生徒による双方向での評価の仕組みが必要となります。そのため、教員研修において、

- ① DPに基づき、具体的にどのような力が必要であるか
- ② 教科・科目、HR・学校行事、部活のそれぞれの取り組みはその力とどのようにリンクするか
- ③ その中で特に教科・科目に特化するとその8つの力へどのような3つのプロセスで整理を行いました。

はじめに、DPを具体的な評価とつなげるために、まずは「力」という視点で、要素を抽出します。そして、ディプロマポリシーの検討時に出された、「このような力を持って卒業してほしい」という内容を軸に、それぞれのあるべき姿を検討します。

そして、「AA⇒こうなれば最高」「C⇒最低限ここまでは身に付けてほしい」をそれぞれの力ごとに定義して、具体的な生徒のイメージを共有します。

この8つの力はそれぞれの教科や活動を統合する役割ももっており、この定義のあとは、各教科の特性を活かし、自分が担当する教科はどんな力を伸ばすのか、そのためには何が必要になるのかを検討します。一番の目的は、教員・生徒がそれぞれの教科・科目をなぜ学ぶかを共有することであり、校内における「大切な価値」の共有、それに基づく授業・活動の実践につなげます。

※次ページにワークの内容およびふりかえり

建学の精神	校訓	ディプロマポリシー	DPに定義される8つの資質・能力・姿勢（案）		ルーブリック案AA	ルーブリックC
<b>報恩奉仕</b> 社会から得られる様々な恩恵に対し、感謝するとともにその真理を追究すること 育った環境に感謝し、培った自己の能力を社会に奉仕・還元しようとする	<b>質実剛健</b> 飾りがなく、まじめで強くたくましい姿勢 他者とのやりとりの中で、自己を知り、飾らず素朴・素直な姿勢で自他の幸福のために強くたくましく生きる姿	<b>健全な心身のもと、自分の資質をより伸ばそうとする力</b>	<b>自律</b> 自分の言動や行動に責任を持ち、自ら考え、次の行動や、将来の夢に繋げることができる。	社会の中での自分の役割・責任を認識し、自分の将来や夢に向かって考え、行動することができる。	自分自身で目標を立てることができる。	
			<b>チャレンジ</b> 自分を意味ある存在として考え自信を持ち、さまざまな事象に呈して、自分の役割を見つけ、全力で取り組むことができる。	たくさんの失敗を活かし、さまざまな状況において当事者性を持ち、全力で、自分らしく取り組むことができる。	自分がチャレンジしたいことがある。	
		<b>寛容性</b> 自分とはちがう視点、考え方もつさまざまな背景を持つ者を受け入れ、さらに協調して共に高めようとする。	ひとりひとりのちがいを大切に、そのちがいを、自分や社会をより良くしていくための重要なものとして、活かすことができる。	集団や他者との中で、他者を気づかえる。		
	<b>誠実力行</b> まじめに目標に向かって努力し続ける姿 変化の激しいこれからの社会の中で、自己の使命を理解し、前向きによりよく生きようとする力	<b>将来の夢の実現に向け、深く考え行動できる力</b>	<b>コミュニケーション</b> 自分の考えを発信でき、相手の考えを聴くことで、双方の共感を引き出せる。	それぞれの人にあわせて、説得力ある発信を行うとともに、相手の考えを引き出し、共感を得ることができる。	自分の意見や考えを相手に合わせて話すことができる。	
			<b>思考力</b> 未知の状況があっても、さまざまな情報を集め、論理的に整理し、さまざまな可能性を検討することができる。	未知のことについても粘り強く考え、これまでの常識にとわられず、情報を整理・統合し、多面的に可能性を検討することができる。	与えられた情報を整理できる。	
			<b>創造力</b> 地域や世界の課題に対して、好奇心を持って試行錯誤し、自分らしい新たな解を創ることができる。	地域や世界のさまざまな課題に対して、自分が培ってきた知識・技術や他者の考えを活かし、試行錯誤しながら新しい解を創ることができる。	特定の課題に対して、自分の知識・関心を活かして向き合うことができる。	
	<b>地域、そして世界の様々な課題に対して、常に当事者意識を持ち、解決に向けて向き合う力</b>	<b>社会に対する当事者性</b> 社会を支える当事者としての意識を持ち、未来を創る担い手としての自覚をもち、様々な課題に向き合うことができる。	よりよい未来をつくることに対する意欲があり、さまざまな課題に対して、積極的に向き合うことができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。		
		<b>地域・世界の課題に関する知識・理解</b> 多様な分野を学ぶことで、地域や社会の成り立ちを理解し、その課題を解決するための知識を身に着けている。	社会の課題について、関係するさまざまな知識・情報をつなぎあわせ、共有することができる。	地域や社会の基本的な知識がある。		





# 【実証事業：学びの改革の内容④ OJTによるアクティブラーニング研修】

本校ではこれまで、授業見学はあまりオープンな状況ではなく、教科内での授業見学の機会等はありませんでしたが、科を超えた取り組みは多くはありませんでした。

今回、学びあいの仕組みづくりおよび次年度以降の「ダイバーシティ」「アクティブ」「ディープ」の3つの学びの実現に向け、授業改善に向けた研修及び教員同士がオープンに授業内容を共有し合う「アクティブラーニング強化月間」を設定し、互いの学びあいの促進につなげました。

＜以下、アクティブラーニング型研修の実施実績＞

○期間： 1月8日～1月27日まで

○OJT研修の内容：

- ・知識を得ることを目的とするのではなく、未知に対して知識を使う授業を展開する
- ・ジグソー法等、主体性かつ対話的な学びのプロセスでの実践
- ・研修スケジュールは共有し、それぞれの授業のアプローチを自分の授業に活かす

○授業実践教員数： 10教科 34名 45コマ

○主な授業実践内容

- ・国語科：幸せを感じる座標軸の考察
- ・社会科：昔話法廷
- ・理科：物理基礎スマホ活用
- ・体育科：心の健康と自己表現
- ・芸術：問題を解決するデザイン
- ・英語科：英作文とプレゼン力
- ・家庭科：食から考えるSDGs
- ・数学科：指数・対数関数
- ・商業科：財務諸表の活用



# 【実証事業：探究プログラム開発①探究WEEKによる探究型プログラム展開】

本年度は、夏と冬、それぞれ5日間、3学科全ての1・2年生が参加する探究WEEKを総合的な探究の時間として位置づけています。

冬の探究WEEKは11月30日のオリエンテーションのあと、12月20日から24日まで実施しました。

探究WEEKでは、何か知識を得ることを目的としているものではなく、自立的に学ぶこと、多様な視点を大切にすることから、最終的には自分の学びたいことを明確化、深化することを目的としています。

今回のテーマは「専北で私しか知らない『専門知識』で授業をする」とし、全員が個人で15分の授業を実践しました。

## ＜なぜ「授業」か＞

発表やプレゼンテーションという名目であると、「話して伝えること」が目的となりがちです。授業では、相手に知識を理解してもらうために、「説明する」以外のさまざまなアプローチが行われます。また日常的に授業を受けている生徒はおもしろい授業もおもしろくない授業も全て知っています。「授業」というアウトプットの方法を用いることによって、それぞれの特性にあわせ、かつ理解してもらうための工夫の度合いを高めるアプローチが可能になります。

## 2021年度 専大北上探究WEEK（後期）のしおり

### ＜探究WEEKの到達点＞

- ・自分がこれから学びたいこと、深めたいことが見つかる
- ・さまざまな知識をつなげ、活用できる力を身に付ける
- ・未知に向き合うことになれる（正解を求めるのから問いを創る力へ）

### ＜探究WEEKで大切にしたいこと＞

- ・「自律」と「自立」 ⇒ 自分で自分の行動をコントロールする 自分から一歩踏み出す
- ・「多様性」 ⇒ ちがうこと、ちがう意見を大切にすること
- ・「質より量」 ⇒ よい答えを探すのではなく、たくさんアイディアを出しまくる

### 専大北上高校ディプロマポリシー

本校は卒業所要単位を取得し、学修成果として次の能力を得られた者を卒業として認定します。

- ・地域、そして世界の様々な課題に対して、常に当事者意識を持ち、解決に向けて向き合う力
- ・多様な違いを尊重し、誰とでも繋がる力
- ・健全な心身のもと、自分の資質をより伸ばそうとする力
- ・将来の夢の実現に向け、深く考え行動できる力

### ＜探究WEEK（冬）テーマ＞

『専北で私しか知らない「専門知識」で授業をする』～ひとりひとりの15分の授業チャレンジ～  
1人15分で全員が授業を行います（最低12分以上最大13分以内）。授業に入れる内容は以下のとおりです。

- ・専北で自分しか知らない「専門的な知識」
- ・それを学ぶこと、深めることは地域や世界にとってどんな意味があるか
- ・その専門的な知識の未来はどうか  
⇒妄想やネット調べだけではなく、文献を活用して、根拠のある授業を行います

### ＜授業チャレンジのポイント＞

- ・受講者（聴く側）に、自分が探究したいことが「すごく意味のあること」「未来に可能性がある」、そして「おもしろい」と感じ、興味を持ってもらえればOK
- ・授業を創る視点としては、「与えた量」ではなく「伝わった量」「学びの量」  
→話して満足ではなく、どう伝わったか、どのような学びになったかが大切  
→自分が話さなくても、様々な工夫をもとに「伝えられること」「学ぶこと」が実現できればOK  
（紙芝居、ワークショップ、クイズ、資料配布、講義等、教室で7人程度が受講できるものであれば授業形式は問わない）  
※スマホの活用も可能（スマホだけに頼らずに、紙芝居など、うまく道具を使い分けて、わかりやすい授業をする）

### ＜スケジュール＞

- 1日目：20日（月） 9：10～12：00  
「アカデミックDAY」～学ぶこと・向き合うことが楽しいと感じる授業を体験する
- 2日目：21日（火） 9：10～12：00  
「授業教材づくり①」 自分の専門分野・学びたいことをもとに授業準備を行う
- 3日目：22日（水） 9：10～12：00  
「授業教材づくり②&リハーサル ～授業を深める～」 10分の授業リハーサル
- 4日目：23日（木） 9：10～12：00  
「授業チャレンジデー」 7人1組で1人あたり15分の授業を実践
- 5日目：24日（金） 9：10～11：00（始業式開始前まで）  
「授業の改善&動画撮影&ふりかえり」 授業を7分以内の動画にまとめる

### ＜事前準備＞

- ・自分の授業の参考となる「専門知識を得られる本」を2冊用意する  
（小説やマンガではなく、専門知識を得られるような本とする）
- ・受講確認はClassiで行います。5日間、出席したかどうかはClassiにふりかえりがしっかりと入力されているかどうかのみ判断します※卒業認定単位なので気を付ける。今、Classiを使えない人は使えるようにしておく（自分のスマホで難しい場合は校内のパソコン・タブレットの利用など、どうするか事前に相談しておくこと）



# 【実証事業：探究プログラム開発①探究WEEK：授業チャレンジとICTの活用】

## ＜4日目：1人15分の授業チャレンジを全員が実践＞



### ＜授業時の実践例＞

「カラーマーケティング」:色彩に対する人間の行動や反応を研究する学問。色はそれぞれ異なる心理学効果を持ちます。

「哲学」:●人間はなぜ生きるのか ●生きる意味に迷ったら幸せであるためのシンプルな人生の哲学とは

「子どもたちの教育・保育の未来」:世界の子供たちと日本の子供たちの未来について世界の現状と日本の現状を調べて学び、自分の将来につなげる

「体の健康を保つための汗腺リハビリ」:スポーツなどで[いい汗をかく]にはどのようなことをすればよいのか、またその汗をかくことで得られる自分へのメリット、悪い汗をかいた場合人体にどのようなデメリットを及ぼすのかについて深く説明する

「授業を作るための授業」:授業を教えるために、生徒との関わりや、教え方、進行方法、などなど、図を使って教える。

「解き続けたいくなる数学」:数学への苦手意識を数学の面白さを伝えることで、数学への苦手意識を無くしてもらいたい。

## ＜5日目授業チャレンジを動画で提出＞

5日目は全員がスマホで授業動画を作成し、動画ファイルをクラウドフォルダへ提出となります。

本校では、基本的に校内でのスマートフォンの活用は禁止となっていました。

しかし、脆弱なWifi環境やタブレット等のICT機器の少なさからも、ICT活用においては、BYODを基本とするしか選択肢はない状況です。

このことから、探究WEEKでは、本校で初めての積極的なスマートフォンの活用を行いました。

### ＜主なスマートフォンの活用＞

- ・出席確認を含む、毎日のふりかえりはclassiで提出
- ・各種情報検索等での活用
- ・授業概要の提出
- ・全授業内容の共有
- ・スマホでプレゼン資料を作成し、授業チャレンジでの活用

また、ふりかえりにおいては、教員・生徒双方にスマートフォンの授業での活用に関する気づきを出してもらい、今後のICT活用に向けた考えおよび課題の抽出を行いました。

# 【実証事業：探究プログラム開発①探究WEEKでの「自走」への取り組み】

探究WEEKにおいては、ひとりひとりの自律的な学びを元にした取り組みを行いました。

教員はあくまで生徒が、自分の探究テーマを深め、それを授業として構築するための「支援」に徹し、「教える」「教わる」という関係から、「学ぶ」「支える」の関係にシフトすることを目的とするものです。

この取り組みをさらに進めるために、この探究WEEKの5日目は、そもそも教員が支援もほとんどできない取り組みとして、スマートフォンによる授業動画制作を組み込みました。3日目までは、探究テーマを深める、それを誰かに伝えるという部分では支援者であった教員も5日目においては、最初の導入のあとは見守ることしかできな状況になり、結果として、**生徒同士でのピアサポート**が随所に行われながら、**学習者が完全に中心になる時間**をつくることができました。この時間の経験からも、教員・生徒において**自走的な学びを進められる自信**が生まれたことが大きな成果であると考えます。

また、探究WEEKにおけるふりかえりやアセスメントにおいても、「どのような発表をしたか」といったアウトプットは全く意識せず、あくまで「**どのように学んだか**」「**これからどのように学びたいか**」「**その学びは地域・世界にどのようにつながるのか**」の3点を軸に問いをたて、自らふりかえるかたちを取りました。

ふりかえりにおいても、罫線やマスがあるような紙でのふりかえりでは本音が出てくることはあまりないことがこれまでの取り組みからも明らかです。そのため、今回はclassiで「スマホを使って」のふりかえりとしたことで、それぞれが独自の表現で自分が得られたこと、変化したことを報告することができました。

今回の評価に関しては、アウトプットに対する評価軸を示すこともできるのですが、今回はおこないませんでした。「授業」という設定を大切にし、それぞれの特性を活かした「伝えるためのアプローチ」ができること、そして何よりアウトプットが大切なのではなく、その**過程で「自ら学ぶ」「自分らしく学ぶこと」そのものが大切**であることを重視し、評価でも**自らの変容を認知すること**を主眼においた取り組みとしました。

また、教員からも大量テキストデータの取り扱いが課題とされたので、テキストマイニングの活用など、それぞれの個の確認をはかりながらも、全体傾向を把握するような具体的なスキルの提供も一緒に進めています。

なお、全体的なプログラムの効果測定として、ディプロマポリシーに基づくアセスメントを前後で実施し探究WEEKの全体としての成果のとりまとめに活用しました。  
※次ページより、生徒のふりかえりの集約およびアセスメントの傾向



# 【実証事業：探究WEEKによる意識・姿勢の変容】

探究WEEKの前後には、1・2年生の生徒全員に対して、ディプロマ・ポリシーと日本財団が行った18歳調査の項目に基づいたアセスメントを実施しました。

※比較するために夏の探究WEEKで行った項目と同じ項目で調査

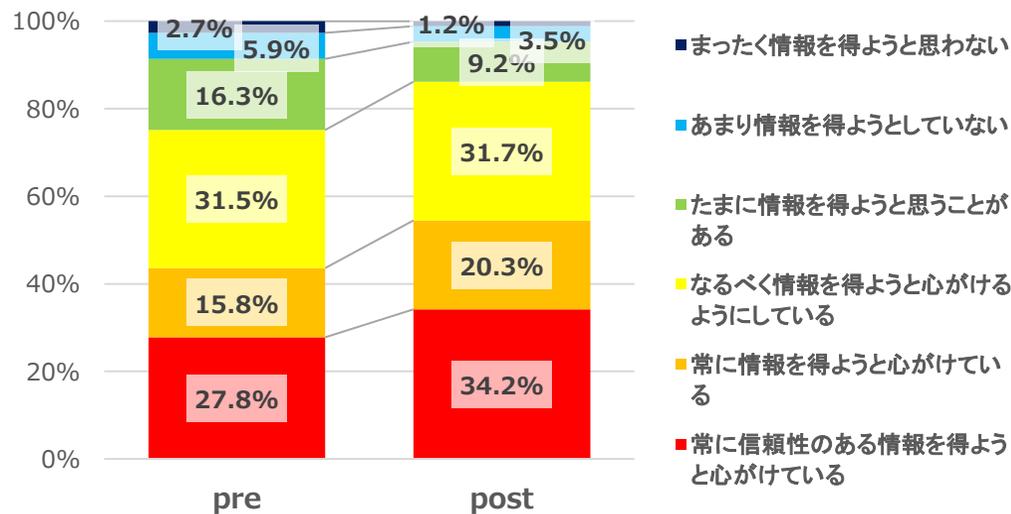
結果としては、短期間のプログラムであり限定的な効果である可能性もありますが、全ての項目において、有意な前向きな変化が生じていました。

このことから、本プログラムが「**自らの学びたいことを明確化・深化すること**」「**社会に対する当事者性を高めること**」「**他者との協働的な学びを推進すること**」につながると考えられます。

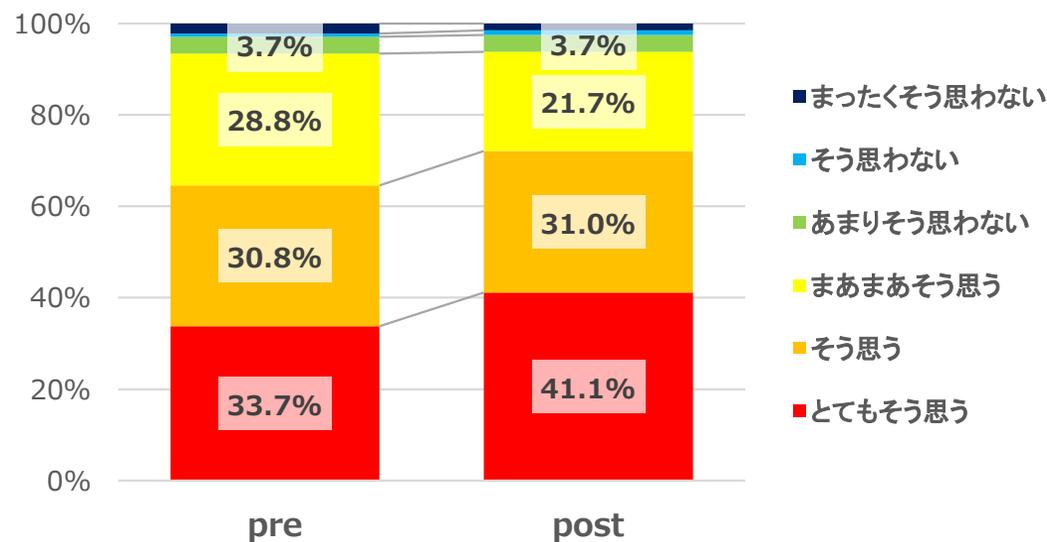
学年・学科ごとのアセスメント(前後両方回答)の回答率

		普通	商業	自動車	全体
1年生	在籍	166	76	21	263
	回答者	132	60	18	210
	回答率	80%	79%	86%	80%
2年生	在籍	139	88	25	252
	回答者	107	66	23	196
	回答率	77%	75%	92%	78%
全体	在籍	305	164	46	515
	回答者	239	126	41	406
	回答率	78%	77%	89%	79%

Q2.日常的に社会の出来事に関する情報を得ようと心がけていますか？  $P<0.05$



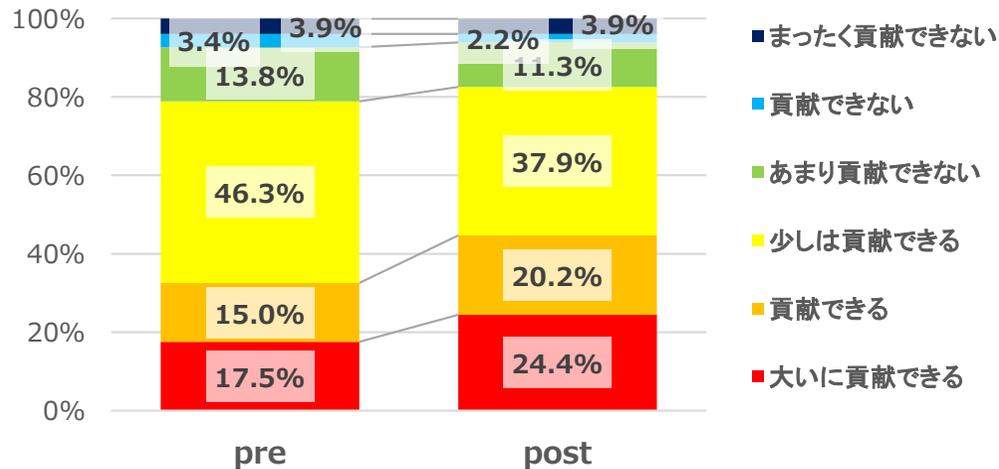
Q3.他者・地域・社会へ貢献したいと思えますか？  $P<0.05$



# 探究WEEK事前・事後比較②

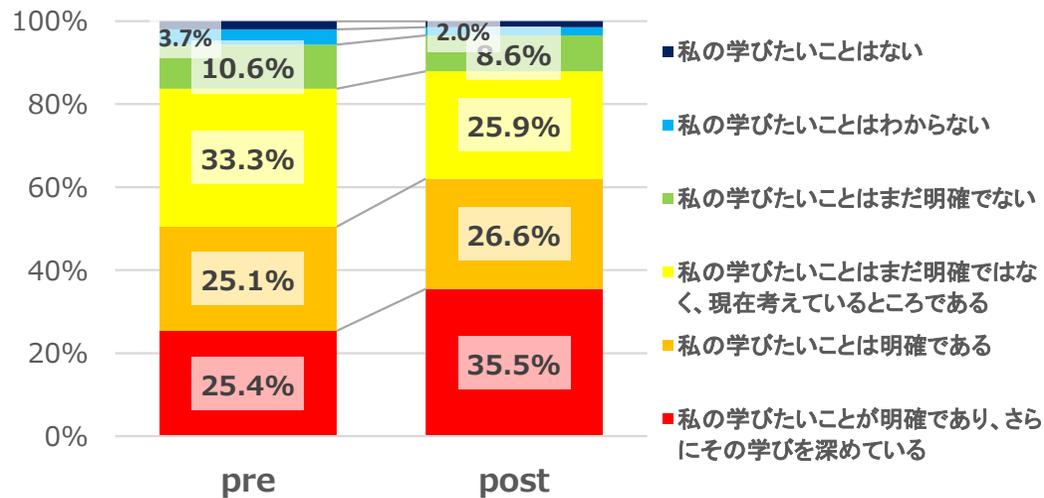
Q4. 他者・地域・社会に対して、自分は貢献できると思いますか。

P<0.05



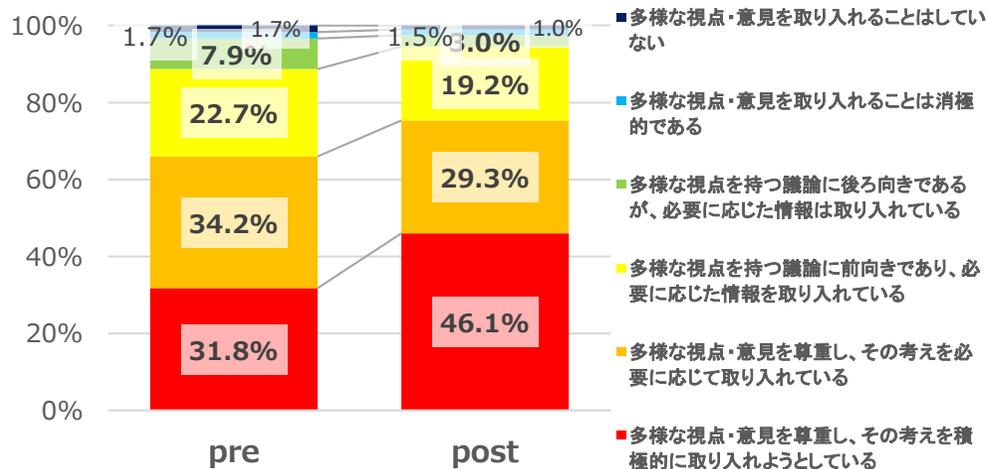
Q6. あなたは今後の就職・進学など、これからの未来に向け、より学びたいこと・深めたいことを持っていますか？

P<0.05



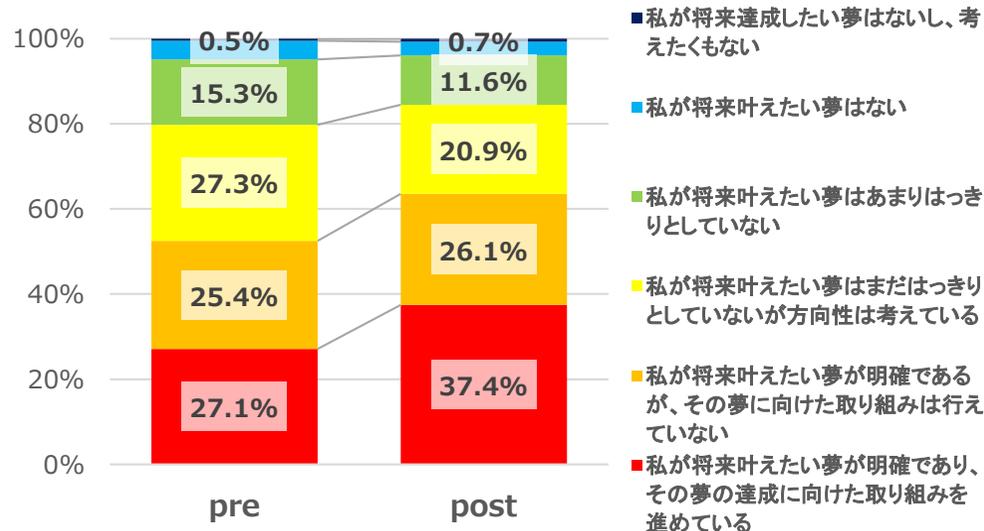
Q5. 自分と異なる視点や意見の人との話し合いや学びあいに対して最も近い考えはどれですか。

P<0.05

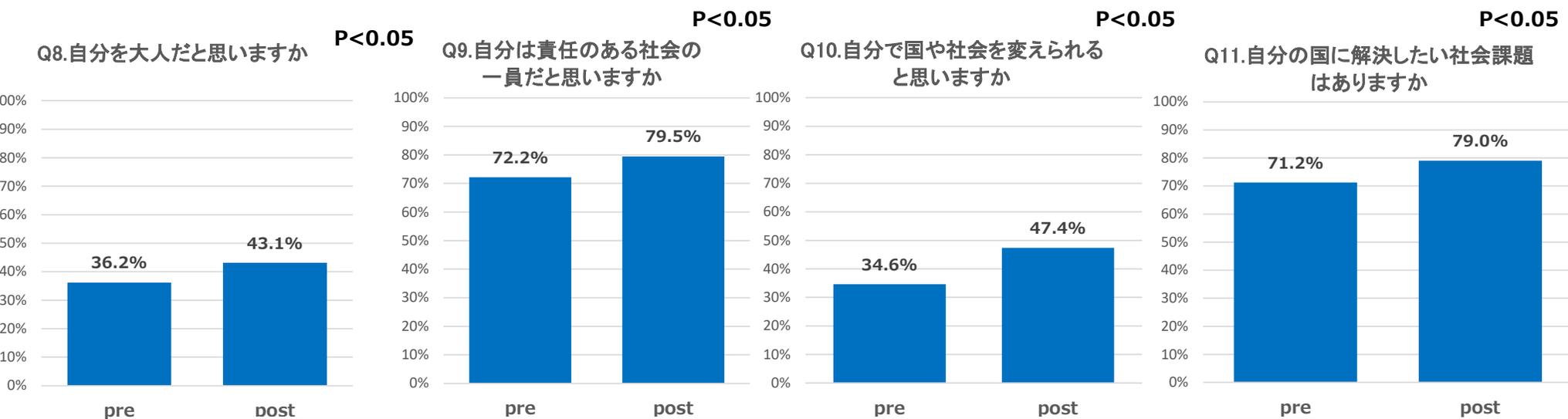


Q7. あなたは将来叶えたい「夢」を持っていますか？

P<0.05



# 探究WEEK事前・事後比較③ (日本財団 18歳調査との比較から)

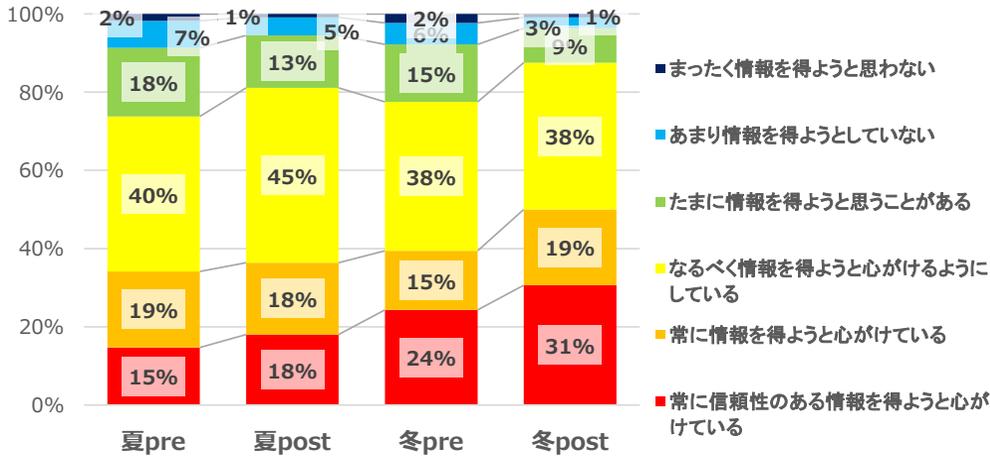


Q1 あなた自身について、お答えください。(各国n=1000)  
 (※各設問「はい」回答者割合)

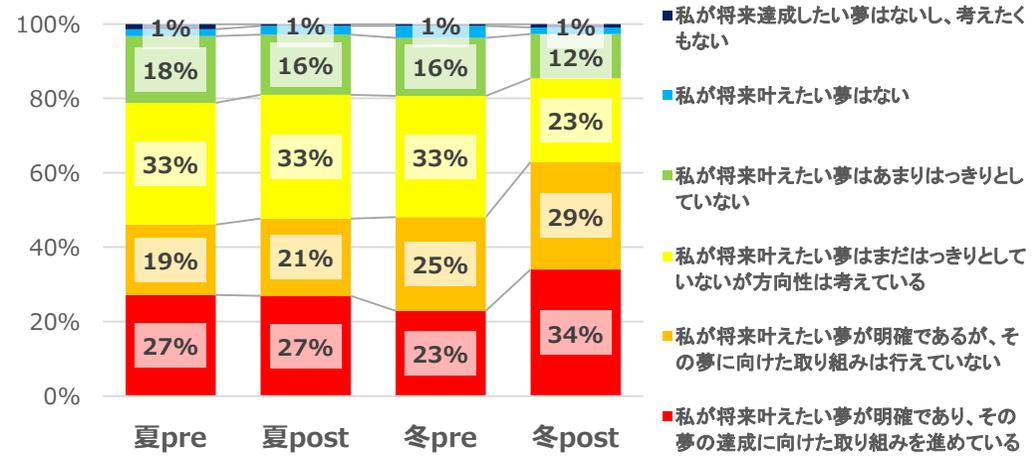
	自分を大人だと思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を変えられると思う	自分の国に解決したい社会課題がある	社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している
日本 (n=1000)	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド (n=1000)	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア (n=1000)	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国 (n=1000)	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
バトナム (n=1000)	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国 (n=1000)	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス (n=1000)	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ (n=1000)	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ (n=1000)	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

# ※参考：探究WEEK夏からの継続変化（夏・冬回答者 n=218）

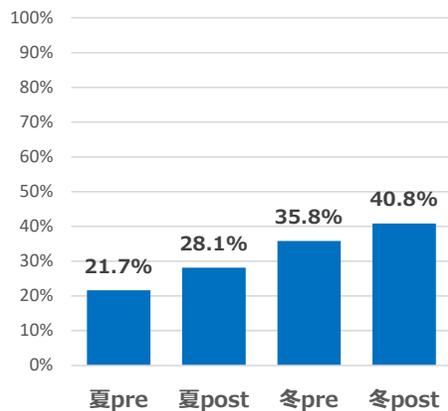
Q2.日常的に社会の出来事に関する情報を得ようと心がけていますか？



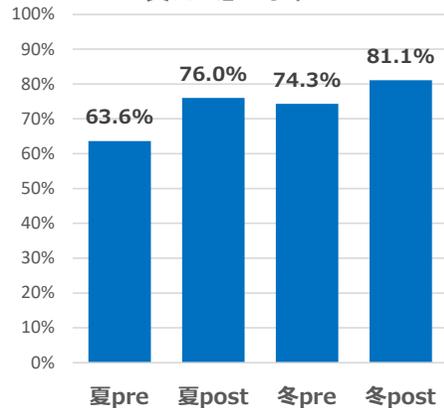
Q7.あなたは将来叶えたい「夢」を持っていますか？



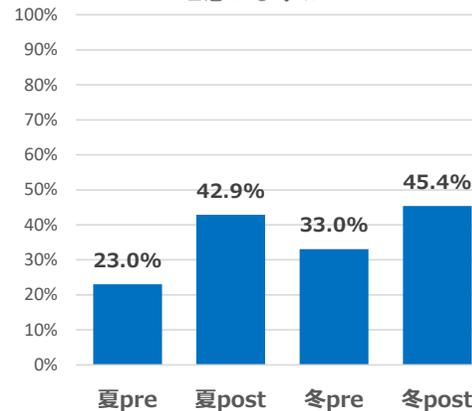
Q8.自分を大人だと思えますか



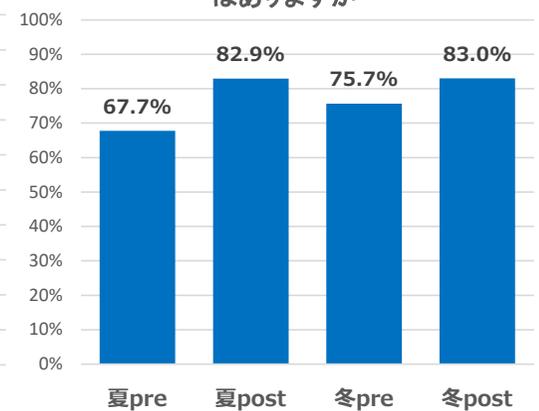
Q9.自分は責任のある社会の一員だと思えますか



Q10.自分で国や社会を変えられると思えますか



Q11.自分の国に解決したい社会課題はありますか



# 【実証事業：探究WEEKによる教員の意識・姿勢の変容】

探究WEEKにおいては教員と生徒という関係においても新しい気づきをもたらしました。

**「多様な視点」による学びの深化 自立した学びの姿勢 スマートフォンの活用 探究型授業の必要性**といったキーワードが多くみられ、教員にとってもICTを活用した自立的な学びが本校でも実践できるという手ごたえを得られた取り組みであったと考えられます。

## 探究WEEK教員ふりかえりで出された主な内容

- ・「ふりかえり」の時間をあらかじめ単独で取っておくことでそのために生徒たちは私たち教員や他の生徒の話をよく聞くようにしていた。
- ・異なる科が集まっているので、いい意味で緊張感があり、さらに教え合いもあったことが見られた。
- ・教師よりも生徒の方が情報収集能力に長けていること。スマホの活用術が教師よりはるかに上なこと。
- ・思っていた以上に生徒たちががんばって頑張ってくれていたと思う。人前で話すことに抵抗がある人も初めは多かったため心配だったが、思いの外なんとかしようと頑張る姿を見る事が出来た。
- ・人前で話をするのが不得意な生徒が多いのかなと思っていたが、一人一人一生懸命に自分が調べた内容を発表している姿を見て、いつもと違う一面を垣間見ることができた。チームで取り組んだことにより、刺激を与え、受けやろうとする意識が高まる効果もあったと思う。
- ・生徒の取り組みが思いの外真剣で、こんなにも集中する力があることを認識させられました。
- ・生徒の授業を見ることで先生のことをよく見ているんだなと実感した。
- ・生徒は、興味があるものであれば、一生懸命取り組むのだということが分かった。また、小中のころから発表し慣れているからか、動画配信など見慣れているからなのか、学力に関係なく発表の仕方が上手い生徒がいる。生徒がこちらの予想よりもよく取り組んでいた。
- ・生徒ははじめに一生懸命やっていて、こちらの想像以上の成長が見られました。なので環境さえ整えば生徒は若い力でどこまでも伸びるものだと思います。
- ・生徒は教員が思っている以上の力を持っていること。教員の働きかけひとつで、いろんな可能性が生まれるということ。
- ・探究は深めようとするほど、やりがいと楽しさが生まれると思いました。生徒の取り組みも同様に、熱心熱心に取り組んでいたと思います。やはり、スマホを持たせると、とてつもない能力と可能性を発揮すると実感した。
- ・予想以上に生徒たちが自立してなんとかしようと頑張っていたと思い、感心しました。生きる力に大きく繋がる時間だったと思います。
- ・テストや点数などではない測り方もできるものだな、と思いました。記憶や知識だけでなく、表現力や組み立てのセンスなど、生徒は色々持っているものだと思います。
- ・どちらかという、こちらから生徒へ一方通行が多かったと思うが、生徒間での共同作業の重要性がわかった。また、科、学年を飛び越えてのグループでもしっかりやり切れる力があることがわかった。
- ・もう少しスマートフォンを使用した授業づくりや部活動経営をしてみても良いと思いました。
- ・やはり生徒が自走して何か活動をするというのは重要だと改めて感じました。
- ・意外に生徒は頑張れる
- ・教員の考え方が変わらないといけなと感じました。共有して、理解して、協力する体制が整わないと生徒に探究力をつけるのは難しいです。
- ・実践により確実に、自発、自立、自律が将来、役に立ち、そしてたくましく生きる糧となること。
- ・初めての探究だったが、生徒たちが試行錯誤しながらも一生懸命に取り組んでいたと思います。発表後のクラスの生徒たちは、達成感を口にしていました。
- ・生徒に「できないだろう」「無理だろう」、という偏見を持つのは良くないと思った。
- ・難しい学問的な話を生徒にしましたが、生徒のアンケートを見ると自分が思っているよりしっかり聞いてくれていて、理解しようとしてくれていたと知りました。難しいから興味ないだろうなという先入観は捨てて、理解してもらえるように噛み砕いた上でもっと専門的な話もしてみようという気持ちに変わりました。
- ・年齢関係なくオープンマインドであることが大切だと感じた。
- ・普段の授業ではあまり勉強が得意でない生徒も、しっかりと発言ができていますなど驚きと感動がありました。

# 【実証事業：探究プログラム開発②】

## AsteriaとSTEAMライブラリーによる探究型授業のコンテンツ研究】

2022年度からの新しい探究プログラムの開始に向け、学びのコンテンツ構築のために、経済産業省のSTEAMライブラリーとZ会のAsteriaの活用に向けたモデル事業を実践しました。

STEAMライブラリーでは、2つのコンテンツを別な対象をメインに行い、ライブラリー内の動画を使いつつ、教員がその対象および授業にあった問いを再設定し、授業を進めました。社会科の時間での実践において英語の視点を入れるなど、教科統合的な学びを意識した実践となりました。

### <STEAMライブラリーの活用の可能性>

- ・教科横断型の授業枠を設定し、教員協働による授業実践
- ・生徒間での学びあい・授業チャレンジのコンテンツとしての活用（情報を得るDB的活用）

### ※実施に向けた課題

- ・ICTインフラがこの1年はまだ弱いため、さらなる情報収集をどのように行うかの仕組みづくり※BYODでのスマートフォンの活用等
- ・A軸・B軸の問いが多いので、C軸の問いづくりおよびそれに基づくスライド等の授業コンテンツの制作



## 【実証事業：探究プログラム開発②】

## 教科横断型授業の可能性検討

複数の教科の教員がワークショップ形式でシラバスを共有・ブラッシュアップする機会をもち、定義した8つの力に基づいて、どのような教科横断型授業ができるかという視点でアイデア出しを行いました。

8つの力に基づき、それぞれの教科で身に付けたい力を定義しているため、そこが結節点となり、多くの協働授業企画が生み出されました。

次年度以降、この視点をもとに、それぞれの教科の学びをつなげる取り組みを進めていきます。



### ＜ワークショップで出された教科横断型授業アイデア＞

- ・国語×英語×社会  
→日本語・英語の言語が持つ特性からみる文化比較
  - ・社会×数学→社会的事象の統計処理・結果考察
  - ・理科×数学（データ）×英語、国語（発表・文章の読み比べ）→環境問題
  - ・倫理×生物→生命倫理
  - ・現代社会×英語→ディベート
  - ・公共×家庭→消費者教育
  - ・化学×家庭→調理実習での化学変化
  - ・化学×公共→公害、環境
  - ・数学×体育→動作解析・バイオメカニクス
  - ・英語×簿記→国際会計
  - ・家庭×簿記→家庭簿
  - ・英語×ビジネス基礎→English ビジネスマナー
  - ・自動車×マーケティング→営業販売
  - ・自動車×英語→営業販売
  - ・国語×数学→証明活動を通じた文章表現
- ※情報と各教科のプレゼンテーション  
※国語と各教科で論文作成

# 【探究プログラム開発

## STEAMライブラリー・教科横断型授業の可能性と課題】

探究プログラム開発の②と③では、教員によるふりかえりの中で、さまざまな可能性および課題が出されました。

### ＜教科を探究化するときの要件＞

#### ・「アウトプット」のデザインが大切

⇒教材にある問いが調べたものを記入するのか、複数の情報を組み合わせ、そこに自分の考えをいれなければならないような「未知の問い」にするかで学びの質が変わってきます。良い問いはよいインプットを生むという前提での教材設計が必要であると考えます。

#### ・はじめに「問い」をつくる時間の設定

⇒より主体的な学びを実践するためにも、設定した題材・課題に対しての自分の意思・考え方を発することからスタートします。最初にその課題に対しての認識や理解度のちがいを共有することで、より効果的な協働学習が可能になります。

#### ・複数の教員の「教科専門性」を活用

⇒教員はその教科における専門性のフィルターをもって題材を確認することで、さまざまな問いを生み出し、より広い活用方法を見つけることができます。それぞれの教科に直結する問いを生徒に出すことで、より題材への理解度を深めるとともに、各教科で得られる地域が実社会でどう使われるかについての理解が深まります。

### ＜実施に向けた課題＞

#### ・教科書をどうするか

⇒教科学習の主たる教材である「教科書」。この教科書を離れた学びについては、教員・生徒双方でまだまだ違和感を感じます。「教科書⇒定期テスト」での学び・評価のサイクルではなく、3観点に基づく評価と教科の探究化を連動させる必要があります。本校では、シラバス改善を入口に観点別評価の質の向上にむけた各教科の評価体系の改善を行っています。なぜ学ぶのか、どう学ぶのかを共有した上で、教科書以外での学びを進めていく予定です。ただし、大学入試やそれに対応した外部テスト等と整合性を図っていく必要があるため、課題は残ります。

#### ・時間割の柔軟化

⇒教科横断型での授業を行う際に、2科目以上の授業をつなげて実施するためには、関連する時間割の変更など、事務的な負荷がかかります。また、教員数の少ない教科においては、時間割変更も他学年まで影響することがあり、実施に向けてボトルネックになることも多々あります。教科横断型授業の集中ウィークの設定や週をまたいだ授業の入替を含めた柔軟な運用など、時間割そのものの運用の改善が必要です。



# ※参考 改革に向けたロードマップ（2020年12月）

## 専大北上高校 未来創造委員会 「3つの改革実現に向けたロードマップ（素案）」

改革項目		短期（2021年3月末まで）	中期（2022年3月末まで）	長期（新校舎使用開始まで）
Change1 「枠」の改革	<b>教員自身の努力と組織的な授業改善の取り組み</b> <b>授業改善</b> <b>努力しやすい仕組みづくり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な他教科の授業見学の仕組みづくり</li> <li>・カリキュラム変更に向けたスケジュール作成</li> <li>・外部研修への参加の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創造性のある授業の実践</li> <li>・学ぶ意味を深め、主体的な学びにつながる授業</li> <li>・研修機会、学ぶための休暇（教員）</li> <li>・個別指導体制の確立・校内塾等の支援体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒評価の自動化と考査の廃止</li> <li>・新カリキュラムへの移行</li> <li>・カリキュラムの変更、選択肢を増やす</li> <li>・1クラス辺りに人数減</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教学事務の採用</li> <li>・業務効率化に向けた行事・会議・事務の棚卸</li> <li>・職員室内紙ファイル削減（保存年限、書庫移動年限の明確化）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張、起票の電子申請、電子報告</li> <li>・行事・会議などの改廃・統合の実施</li> <li>・電子決裁（起票、出張、年次、旅費等）</li> <li>・ICT改革担当を任用、研修参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース改革に伴う業務負担の整理</li> <li>・教員の努力が評価に反映される仕組みの構築</li> </ul>
	<b>ICT環境の充実によるきめ細かな学びの実現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT改革委員会の分掌を立ち上げ</li> <li>・探究活動でのICT活用</li> <li>・ICT活用に向けた研修・視察の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業（個に対応）</li> <li>・ICT（Classi等）による課題配信と評価・成績履歴の蓄積・各種評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1台のタブレットを前提にしたカリキュラムの実践</li> <li>・動画コンテンツを使った習熟度の違いに対応した学びの実践</li> <li>・ICTを用いたグローバルな学び</li> </ul>
	<b>PBLを基本とした「探究型授業の推進」</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究に関する研修の実施</li> <li>・教科間連携による授業の試行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改革推進（生徒が教える・生徒が主体的に学ぶ仕組み）</li> <li>・各教科内での探究的アプローチの実施</li> <li>・教科間連携、教科横断の推進</li> <li>・「総合的な探究」の全導入（全体カリキュラムへ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業横断型のPBLの定着と社会につながる学びの実践</li> <li>・インターンシップや中長期留学等、学外での学ぶ場の充実</li> <li>・多様な大学との連携による学びのプログラムの強化</li> </ul>
	<b>学力を測る3つの観点からの評価で学びの変容を図る</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価に関する課題整理と学びのルール作成</li> <li>・各科、各コースの評価規準の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価の運用充実</li> <li>・生徒独自の成績の見える化</li> <li>・各科の学力観の設定、議論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとりひとりの学びの姿勢を高める評価の実践</li> <li>・継続的な評価に関する研修の実施</li> </ul>
Change2 「環境」の改革	<b>ICT環境の整備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーバー増強</li> <li>・Classiの使用に関する評価および改善</li> <li>・ICT関係の教員研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無線LAN環境によるフリーアドレススペースの開設</li> <li>・生徒の1人1台PCの実現</li> <li>・教職員1人1台PC・タブレット支給</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子教科書の活用スタート</li> <li>・提出課題をWEB上で管理</li> <li>・各教室のプロジェクター・電子黒板の導入</li> </ul>
	<b>一日も早い「校舎改築宣言」</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行校舎の課題整理・新校舎にむけた研究</li> <li>・企業（同窓生）から援助をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行校舎の課題整理・新校舎にむけた提言</li> <li>・エアコン導入（教室）2号館</li> <li>・教室のレイアウトの改善（壁のホワイトボード化等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学びを中心にした新校舎の実現（・開放的な学びやすい教室・コミュニケーションをとりやすいレイアウト・個人ロッカー（生徒・教員）などの確保・地域に開かれたスペースづくり・体育施設の充実など）</li> </ul>
	<b>各学科の魅力あるカリキュラム見直し、普通科にコース制導入</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース改編に向けた検討開始（学園（法人）との連携・スポーツコース等）</li> <li>・新導入に向けたカリキュラム検討開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科のカリキュラム見直し</li> <li>・コース改編の募集等具体的な内容の確定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース改編の本格実施</li> <li>・時間割の設定、自分で作ることができるなど、より主体的な学びが実現できるコース設定へ</li> </ul>
	<b>社会（地域）に開かれた教育環境の整備（外部リソースの活用）</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北上市とのSDGS協定の内容の具体化</li> <li>・公式Instagram、Twitterによる情報発信強化等、同窓生および地域内外への情報発信の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市、地域との連携強化（市民講座等の協働実施等）</li> <li>・商業科インターンシップ強化</li> <li>・同窓生とのつながりの強化（地域企業）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップや留学等の学外学習機会の充実※再掲</li> <li>・多様な大学との連携による学びのプログラムの強化※再掲</li> <li>・地域連携が行いやすい新校舎※再掲</li> </ul>
	<b>UDL（ユニバーサルデザインラーニング）の推進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LGBTの理解深化と整容指導の在り方、見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なちがいの配慮に関する研修の充実</li> <li>・制服や校則等のちがいの配慮の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい、言語、性などのちがいがあっても学びやすい校舎・制服およびルールの運用</li> </ul>
Change3 「トータル」の改革	<b>「チャレンジ」&amp;「失敗」が評価されるマインドの醸成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のチャレンジの推進と失敗に寛容な雰囲気づくり</li> <li>・部活動や各種活動における「チャレンジ」への評価の推進（失敗しても「チャレンジしたこと」を評価される環境づくり）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の社会でのチャレンジの場づくり</li> <li>・各種行事の生徒主導への移行</li> <li>・教員内でのミドルリーダーの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種カリキュラム、部活動における主体的な活動の推進</li> <li>・新しい社会を創る「イノベーション人材」の育成</li> </ul>
	<b>生徒を第一に、大切に育てる、教員マインドの醸成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機の配置変更・職員室内コミュニケーションの推進</li> <li>・学科・教科の垣根を越えた連携</li> <li>・第1・第2職員室の連携強化</li> <li>・朝会や各種会議の改善によるコミュニケーション改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性を持った外部講師の拡充</li> <li>・各種改善に向けた定期的ミーティングの実施</li> <li>・教員の各分掌を1回経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任制の廃止によるチームでの指導体制づくり</li> <li>・教職員の席のフリーアドレス化</li> </ul>
	<b>「自立」を前提にした、否定・批判・強制等、部活動を含めた「指導」からの脱却と能力開発に努めた「支援」態勢の確立</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動のあり方に関する研修および校内検討の開始</li> <li>・特進コースの今後のあり方に関する検討（話し合い型から自立型への検討）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立を前提とした学びのプログラム（探究との運動）</li> <li>・生徒主体の部活動の実践</li> <li>・総合型地域スポーツクラブ等の新しい部活動のあり方の検討</li> <li>・生徒会が動きやすい様なバックアップ体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒ひとりひとりが自分の時間を持ち、自分で選択できる体制づくり</li> <li>・勝利至上主義以外の選択肢のある部活動の実施</li> <li>・生徒主体による校則の実践</li> </ul>
	<b>「多様性」を尊重した様々な理解（国籍、障害、思考、性別等）</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまなちがいの状況の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の多様性に関する理解促進に向けた研修</li> <li>・カリキュラムの多様性、対応性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちがいを個性につなげるカリキュラムの実践</li> <li>・障がい、言語、性などのちがいがあっても学びやすい校舎・制服およびルールの運用※再掲</li> </ul>

## **【専北学校改革推進のポイント②】そもそもを大切にする**

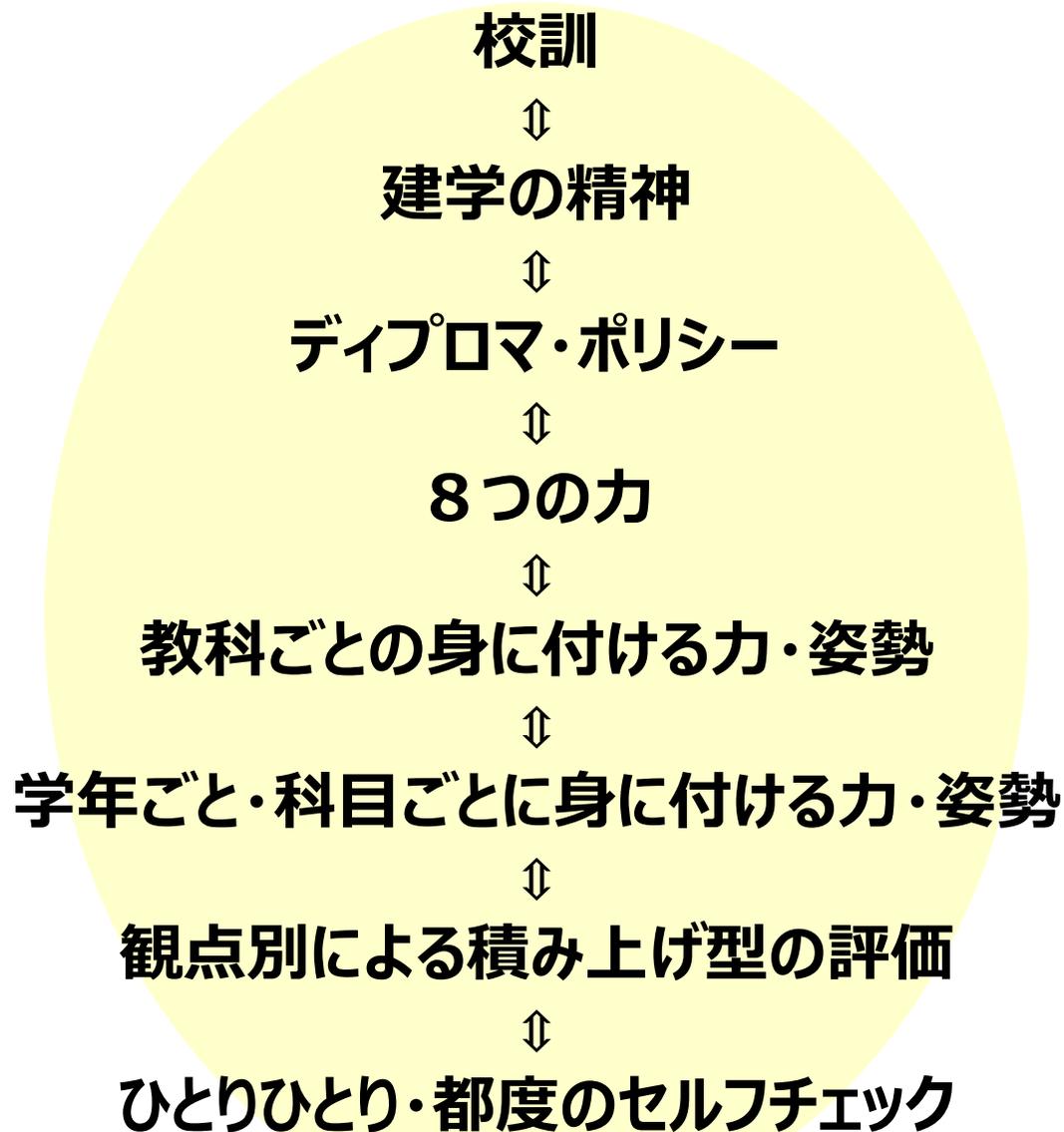
本校では、これまで校訓こそありましたが、それに基づく具体的な評価基準等は明確化されていませんでした。

今回の取り組みの中で、アドミッション・ディプロマ・カリキュラムの3つのポリシーを明確化し、さらにディプロマ・ポリシーに基づき8つの力を定義することで、そもその何のために、何を行っているかという部分の共有化を図っています。

そしてこれは概念的なものばかりではなく、教科や部活動、さまざまな課内・課外の活動で紐づけることで、「何のために学ぶのか」、「そのためにはどのように学ぶのか」を教員と生徒の間で認識を共有することにつなげていきます。

そしてその学びの進捗度合いを双方向で共有するための評価の仕組みの構築を2022年度から試行的にスタートします。

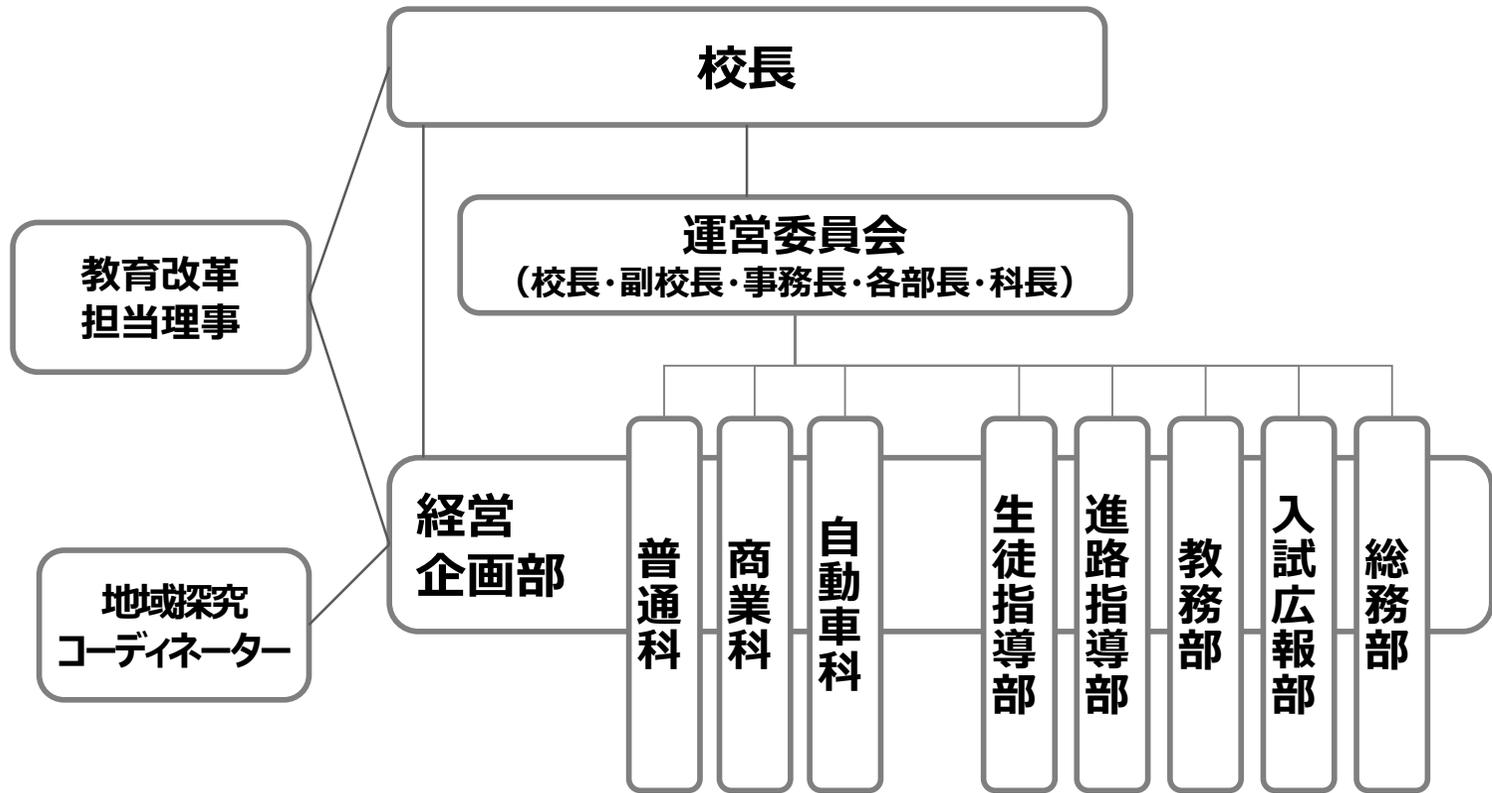
さまざまなアクションに対して、「何のために行うのか」を明確化する取り組みを行っていきます。



# 【専北学校改革推進のポイント③】部署横断型の推進体制づくり

学校改革においては、教務・校務・進路・入試等の一体的な取り組みが求められます。  
また、本校は3つの学科があり、学科間での共通理解の醸成も学校改革においては重要なテーマです。  
そのため、学校改革を推進するために、ミドルリーダークラスで構成される「経営企画部」を新たに設置しました。  
校長は、大きなビジョンの設定、さまざまなリスクに対するマネジメント、渉外活動によるさまざまなリソースの活用が役割の中心であり、実際の校内での実務的な改革の推進は経営企画部が担うことによって、トップダウンでのスピード感のある展開と実情にあわせた現場への着地の両輪での事業展開が可能になっています。

＜学校改革に関する体制図＞



# 【専大北上高校未来の教室実証事業の成果とは】

## 学びの 改革

- ・教員の対話を軸にした、ディプロマ・ポリシーに基づく「8つの力の定義」、その力をもとにした「各教科・科目の学ぶ目的および到達点の明確化」、その実現にむけた教員と生徒の共通理解ツールとしての「評価体制の明確化およびシラバス改善による共有体制の構築」を行うことができた。  
⇒次年度以降の学びの軸の言語化が可能となった。
- ・各種研修会およびアクティブラーニングOJTにより、教科を超えた校内全体での「学びの土壌」づくりにつながった。

## 学校 マネジメント

- ・探究WEEKによる生徒のスマートフォンを中心としたBYODのテスト実施により、次年度以降の「専北DX」に向けた教員・生徒によるICT活用の長所・短所の共有が図られ、共通イメージをもとに今後の検討が行える状況となった。  
※次年度以降、BYODでの授業をさらに加速していく
- ・経営企画部が中心となり、授業改善とDX、入試関係の制度改革（WEB出願やプレゼンテーション入試の導入）を行うことで、コース改革に基づくハード、ソフトの一体的な整備にむけた体制構築を行うことができた。

## 探究 プログラム 開発

- ・教員・生徒の双方が、自走型での探究プログラムを進めることのイメージが共有され、またそれを進められるという自信がついた
- ・特に教員が、主体的な学びを支えるための自分の役割について考えるきっかけとなった
- ・多様な対話の中で、教科横断型の取り組み等についても教員側からアイデアが生まれ始め、次年度以降の各教科の探究型の取り組みへつなげる機運が醸成された
- ・DLコース、ALコースの実走に向けた探究の基本コンテンツが整理され、特に本校の特徴である多様性と、今回の成果の軸となる「自立」の2つのキーワードから具体的なコンテンツづくりにつなげることができた。

# 【今後の展開①学びの改革：シラバス共有による教科横断型授業インフラの整備】

## ※シラバス改善案

令和4年度 シラバス 「新科目」 ※あくまで科目ごとに設定 授業開始時に配布・共有できるように

教科 科目	学 年	教科名
	学年次	教科名

<DPに基づく「※横断」で身に付ける能力・姿勢 ※ (DP) 卒業時点で身に付けてほしい「数学科」としての優先>

B 2つの力	AA こうなれば高橋らしい	C 必ず到達すべき事項

<この科目（新：このシートでいう進学）における到達点※学習目標>

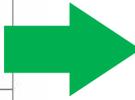
知識 技能	
思考 判断 表現	
主体的 学習姿勢	

<この教科の学習方法 ※両者はわかるように>

授業に おける 学習方法	
--------------------	--

<年間スケジュール>

学 期	内容の ままとり	単元 (題材)	項目 (学習活動)	単元ごとの学習目標 (どんなことができるようになってほしいか)
1 学期				
2 学期				
3 学期				
4 学期				



2022年度からのシラバスにおいては、各教科でどのような力を身に付けるかを明確化し、それに基づく評価体系の整理を行います。その力をさらに高める取り組みとして、教科横断型の授業も推進します。各教科における授業連携をさらに円滑化するために、下記の参考資料のような各教科ごとのカリキュラムマップを作成するとともに、それに基づく教科横断型授業を考える研修（ワークショップ）を行い、積極的な教科連携授業を増やしていきます。また、その結果を2023年以降の時間割検討にもつなげ、教科横断型の取り組みを推進できるインフラを構築します。

## ※カリキュラムマップイメージ（北海道：浦河高校より）

i 第1年次

No.	教科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	国語総合			意見を書く	本文をもとに、 意見を書く					自分の意見 を書き、話す		自分の意見を 書き、発表する	
2	現代社会	速いを知るた めのグループ	選挙制度 (模擬選)			障害者体験 【家庭・福祉】		共生社会に関して ポスターセッション【資・					
3	数学 I A			集合と命題 (論理思考)		2次関数 (手続き思考)				データの分 析			
4	化学基礎		蒸留、同素体などの実験									酸・塩基や、酸化・還元 についての実験【調】	
5	体 育		体力測定データの Excel集計【情報】						男女必修選択 (器械運動)				
6	保 健						健康の保持増進と 疾病の予防【調】		精神の健康				
7	産業社会と人間	自己理解 (宿泊研)	ジョブリサーチ (職業観、探究初学)	論理的 思考講座		思考ツール 論理思考	科目 選択	探究学習	学習成果発表				
8	音楽 I			合唱			リコーダーアンサンブル		作曲活動				
9	美術 I	VTS 動物 デッサン	色彩学	ポスターの制作			立体風の制作		フェナキストスコープ			抽象彫刻	
10	書道 I											作品鑑賞 【発】	
11	コミュ英語 I								異文化交流・ 年賀状作成【情報】				
12	家庭基礎	自己理解 (エコグラム)				共生社会 【家庭・福祉】			異文化交流・ 年賀状作成【英語】				
13	社会と情報	Wordの使い 方	体力測定データの Excel集計【体育】						異文化交流・ 年賀状作成【英語】		音声や画像におけるデ ジタル化についてタブレット学習		プレゼンテーション
14	LHR	生徒意識調査 宿泊研修		学校祭に向けての グループワーク		体育大会に 向けて			インターネットを利用した 情報検索の方法				

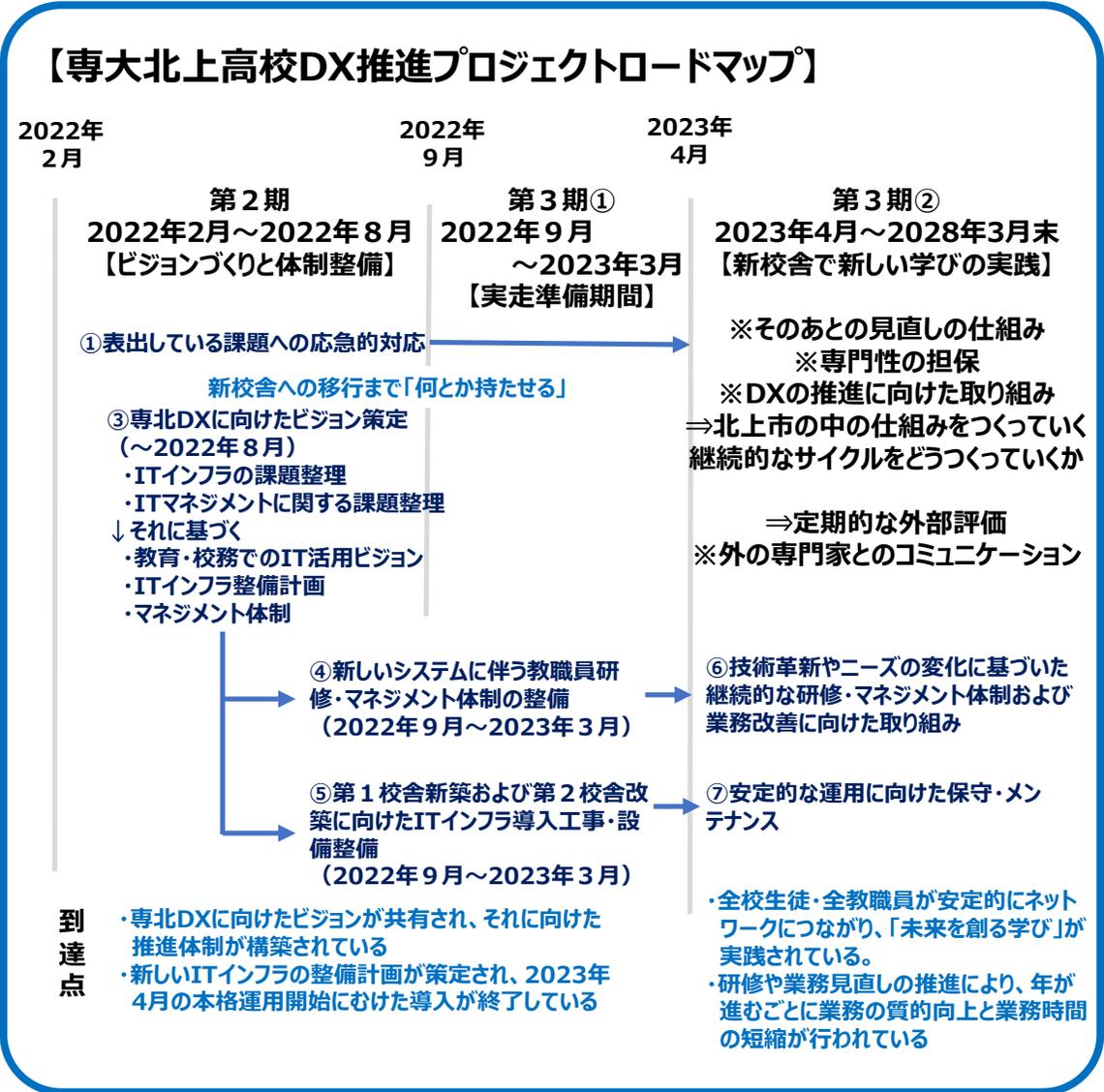
※年間を通して、臨時的にこの教科における到達点の3観点につながるように、整合性を図って単元ごとの学習目標を設定すること

# 【今後の展開②：専北DXプロジェクトによる学びとマネジメントの一体的改革】

専北DX推進事業は、デジタルの技術を適正に導入することで、生徒ひとりひとりの個性にあわせた主体的な学びの実現と、校務全体の負荷を減らし、教員ひとりひとりが生徒の成長に向けたより前向きな取り組みができる環境の実現を目的としています。2022年2月から本格的な検討を行い、新校舎での学びがスタートする2023年からの本格的な運用を目指しています。

## ＜具体的な取り組み＞

- 「アクティブ」「ディープ」「ダイバーシティ」の3つのラーニングの推進にむけたデジタル技術活用
  - ・未来の学びの実践
  - ・1人1台の端末のあり方の検討
  - ・生徒のリテラシー向上
- DXによるコミュニケーションの円滑化
  - ・情報発信・共有体制の構築
  - ・本校メディアの位置づけ及び運用の整理
- DXに向けた校内マネジメント体制の構築
  - ・ITを活用した教員・事務の一体的なマネジメント体制の構築
  - ・リテラシー向上とさらなる業務改善
  - ・校務支援システムの導入等
- 安全・安定的なネットワークの運用



# 【今後の展開③】：教科横断のコア科目としての総合的な探究の時間の展開

2022年入学生を対象とした総合的な探究の時間は、本校においても通年型での初めての本格的な探究プログラムになります。学科も学力も多様な生徒がいるという本校の特徴を活かし、特に1年次は学科横断型のプロジェクトの展開を予定しています。

また、2年次以降のそれぞれの希望に特化した探究プログラムを展開していくための基本的な姿勢を身に付ける時間としても位置付け、自分のこれまでの学び、これから学びたいことと地域・世界がつながる学びの実践をおこないます。

探究は常に未知へのアプローチであり、教員側も探究マインドを持ってチャレンジを進めます。



## 総合的な探究の時間 2022（1年生）実施イメージ（仮）

<総合的な探究の時間とは>

- ・自分が本当に**学びたいもの**を見つける時間
- ・その本当に**学びたいもの**と地域・世界とのつながりから**学ぶ意味を深める**時間
- ・その意味を深めながら、自分が**新しい「知」**を創りだす時間

日程	内容
1 4/19	オリエンテーション「中学校の学びと高校の学びの違い」 ⇒総合的な探究の時間の意味・方向性の共有
2 5/10	仮説設定ワークショップ（グループ） ・各個人の興味・関心の共有 ・仮説設定に向けた具体的な考え方の共有 調べなければならぬことの共有
3 5/24	仮説設定にむけた視点共有 ・そもそもの仮説の考え方 地域で検証する視点の共有
4 5/31	・グループ単位でのワークシートの作成 ・必要な文献の読み込み・仮説の深化
5 6/21	ワークシートへの問い出し&仮説設定 ・自分達が作成したワークシートに問いを出し、さらに内容を深める
6 6/28	夏休みの事前検証の報告 ・夏休みのアクションのクラス内での企画共有&問い出し
7 7/12	夏休みの企画案のブラッシュアップ ⇒夏休みで自分達が検証する仮説および検証方法を classi でエントリーする
夏休み	チーム単位で自分達が設定した仮説を検証してくる 「○○○は、○○○のために活用できるか」
8 8/23	夏休みのアクションふりかえり&報告書作成 夏休みのアクションに関する自己評価を行い、それを元にワークシートを作成 ⇒黒陵祭で展示
9 9/6	夏休みの仮説検証発表会 ・夏休みの仮説検証をグループをわけ1人4分・4人組で発表。課題を整理する。 ⇒全員が自分の言葉でプレゼンする機会を持つ。
10 9/20	個人での仮説検証に向けた導入 ・冬に向けては「個人で、自分の探究したいことが社会でどのように活かせるか」に関して仮説を設定し、それが本当かどうかを社会に出て検証する中で、その探究テーマを学ぶ意味を深めていくことを行う。
11 10/11	「ソクラテス・ミーティング」
12 ○	・地域の様々な現場で活躍する社会人と対話の中で、学ぶことの意味・大切さを考える
13 10/18	「ソクラテス・ミーティング」のふりかえり&今後の仮説検証にむけた課題整理 ⇒先週の学びを自分の仮説検証に活かす
14 11/1 ○	グループでの学びの深化
15 11/8 ○	※STEAM ライブラリー等を活用した「自分の学びたいこと」と社会・世界の接続ワークショップ ⇒仮説検証の先をより広く・より深くする
16 11/22 ○	⇒仮説検証の背景となるデータの収集・整理・分析
17 11/29	冬休みの仮説検証にむけたワークシートのブラッシュアップ ⇒classi で、個人での仮説検証プランの設定
18 12/6 ○	仮説検証方法の具体化・精査① 面談形式で特にサポートが必要な生徒をフォロー ・検証をいつ、どこで、どのように行うかを確定 ※実践している人はさらに一步
19 12/13 ○	仮説検証方法の具体化・精査② 面談形式で特にサポートが必要な生徒をフォロー ・検証をいつ、どこで、どのように行うかを確定 ※実践している人はさらに一步
冬休み	「自分の探究したい・今後学びたいことは、地域社会とどのようにつながるのか」を個人で仮説を立て、それが本当かを検証してくる。
20 1/17	冬休みの仮説検証のふりかえり どんな学びがあり、何を生み出せたかを言語化する
21 1/31	仮説の深化 これまで行ってきたことと学問をつなげ、根拠のある発表にブラッシュアップする
22 2/7	発表会準備・冬休みでの実践の図式化
23 2/21	クラス内ミニ発表会・クラス内でのミニ発表会⇒修正事項を整理し、さらに内容を深める
24 2/25 ○	全体報告会・関係者を含めた取り組み全体の報告⇒外部
25 2/28	ふりかえり ・これまでの学びのふりかえり ・全体での視点共有 ⇒春休みで検証する仮説の設定